

2020年度

事業計画書

自 2020年4月1日

至 2021年3月31日

公益財団法人 自動車リサイクル高度化財団

**東京都港区新橋六丁目19番19号
アセント新橋2階**

【事業概況】

当財団においては、2017年3月の設立以来、将来の地球環境の保全、自然環境の保護・整備と循環型社会の推進に資することを目的し、自動車のリサイクルの高度化等に関する学術的・実践的調査・研究の推進を行うとともに、消費者団体等の自動車リサイクル等に関する周知活動の支援や自動車の解体・リサイクル等の安全・確実、かつ、円滑な遂行に資する情報・機器等の開発・普及等に資する事業を行ってきた。2020年度は上記の目的を達成するために、以下の助成対象事業および自主事業を行う。

【自動車リサイクルの高度化等に資する事業】

I. 助成対象事業（概算総額：307.3百万円）

2019年度までに採択した事業のうち3事業が2019年度も継続実施することを前提としていることから、以下の通り計画。（採択の可否は2020年4月開催予定の選考委員会にて審議）

[前々期および前期からの継続事業]（概算総額：162.2百万円）

- ▶ ASRの低減に資する再生材の基礎技術研究・開発事業(概算総額：153.2百万円)
実施主体：ハリタ金属株式会社
概要：水流選別活用による樹脂リサイクルの技術開発と設備導入及び普及
- ▶ ASRの低減と自動車への再生材の利用に向けた設備開発事業(概算総額：8.5百万円)
実施主体：株式会社マテック
概要：ASR20%削減を目指した樹脂、ガラスの広域回収・高度処理
- ▶ ASRの低減と自動車への再生材の利用に向けた設備開発事業(概算総額：0.5百万円)
実施主体：株式会社エコネコル
概要：ラマン多重選別回収技術、臭素含有プラ検知装置の導入等により、ASR由来プラスチックから、再生原料を製造するためのプロセス開発の実証

上記継続事業に加え、2019年度新たに以下のテーマについて公募を実施。

[今期の新規公募事業]

- (1) ASRの低減等[※]に資する再生材の基礎技術研究・開発事業
概要：使用済自動車の樹脂部品の劣化特性の研究や使用済自動車から発生する再生可能な樹脂の選別技術に関する基礎研究に対する助成を実施。
- (2) ASRの低減等[※]と自動車への再生材の利用に向けた設備開発事業
概要：使用済自動車及びASRからの自動車への再利用に向けた樹脂等選別装置の開発に対する助成を実施。
- (3) ASRの低減等[※]・自動車3Rの高度化に資するリサイクルシステムの事業性評価事業
概要：自動車ガラス等の取外し、材料リサイクルシステム構築・事業性に関して検証。
- (4) 自動車リサイクルに関する周知活動支援事業
概要：自動車リサイクルの取り組みやメリットを消費者に認知していただき、また、上記取り組みが実現

化した際に、積極的に再生材等を活用いただけるよう、セミナー・展示会の開催に金銭的・人的・物的支援を行う。

* ASR の低減等：ASR の低減に加え、次世代のマテリアルリサイクル

(イメージ例：CFRP・LiB のマテリアルリサイクル等) を含める。

公募の結果 9 件の申請があったが、書類審査で 4 件が不採択となり、以下の 5 件を 2020 年 4 月開催予定の選考委員会にてヒアリング審査を行い採択の可否を審議する予定。(概算総額：145.1 百万円)

▶ASR の低減・自動車 3R の高度化に資するリサイクルシステムの事業性評価事業 (概算総額：66 百万円)

実施主体:株式会社エコアール

概要：ASR を発生させない全部再資源化の効率化・拡大実証事業

▶ ASR の低減に資する再生材の基礎技術研究・開発事業(概算総額：27.5 百万円)

実施主体: 日本磁力選鉱株式会社

概要：EV・HEV モーターからのレアアース高効率回収技術の開発

▶ASR の低減・自動車 3R の高度化に資するリサイクルシステムの事業性評価事業 (概算総額：19.7 百万円)

実施主体:三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

概要：事業者間連携によるリサイクルの高度化推進事業

▶自動車リサイクルに関する周知活動支援事業 (概算総額：5.5 百万円)

実施主体: NPO 法人 RUM アライアンス

概要：自動車リサイクルの現場を活用した周知活動

▶自動車リサイクルに関する周知活動支援事業 (概算総額：26.4 百万円)

実施主体: 一般社団法人 日本自動車リサイクル機構

概要：解体業者とメーカーの連携強化に向けたリサイクル設計事例集製作

II. 自主事業 (概算総額：428.2 百万円)

(1) 使用済自動車のリサイクルにおけるベースリサイクル率(82%)の実態調査事業 (概算：22 百万円)

概要:樹脂等を中心に再生材の活用促進が社会的な要請となっていることから、解体段階(次年度は破碎段階を計画)における素材別の取外し状況の実態調査を行い、3R 高度化に向けた各種施策検討の基礎的データとする。

(2) 次世代自動車の適正処理に向けた実証・研究事業

i) CFRP 素材のサーマル処理技術にかかわる実証・研究事業 (概算：244.2 百万円)

概要:CFRP のサーマル処理技術開発ははまだ発展途上の段階であることから、処理技術の調査・研究を実施し広く社会に公開することで、低コストな処理施設の育成・普及を図る。

ii) リチウムイオン電池のサーマル処理実証事業 (概算：50 百万円)

概要:自動車用 Li 電池のリサイクル可能施設は限定的 (10 社程度) であることから、今後の発生量増大を勘案し、全国にリサイクル可能施設をより多く設置することで輸送・処理コストの低減を図り、ユーザー負担額の最小化を目指すとともに長距離輸送等での発火等のリスクを最小化する。

(3) 自動車リサイクル業界の安全な作業と各種作業効率化に資する事業（概算：12 百万円）

エアバッグ作動処理用防護シート導入補助事業

概要:解体工程において実施されている車上作動処理において、冠水車等はインフレーター内部の火薬類が変化し異常爆発を引き起こす可能性がある。また、異常爆発が発生した場合、まれにインフレーターの一部が車外に飛散し、解体事業所の施設や従業員等に損傷を与える可能性があることから、これら車両のエアバッグ類の処理等を安全に作業するための防護設備の開発・配布を行う。

(4)新規自主事業（概算：100 百万円）

以上